

メタアナリシス

文献

小西真愉子, 児玉英也. タッチケア/ベビーマッサージの児への臨床的効果とその生理的メカニズムに関する文献検討. 秋田県母性衛生学会雑誌. 2012; 25: 30-39.

1. 目的

タッチケア/ベビーマッサージの臨床的・生理学的効果に関する一般的かつ包括的な概念を構築する。

2. 研究デザイン

メタアナリシス

3. セットアップ

医学中央雑誌 (検索語: 「タッチケア」 and 「児」、「タッチケア」 or 「ベビーマッサージ」、「マッサージ」 and 「児」、「タッチ」 and 「児」、「ホールディング」 and 「児」) および PubMed (検索語: “massage & infant, neonate or baby”) で、本研究の目的に則した原著論文を検索。結果、対象文献は、海外 16 件、国内 7 件。

4. 参加者

研究対象は、早産児 15 件、成熟児 5 件、早産児と正期産児 2 件、記載なし 1 件。介入群の標本数は、100 例以上が 2 件、50 例以上 100 未満が 1 件、10 例以上 50 例未満が 14 件、10 例未満が 2 例。

5. 介入

タッチケア/ベビーマッサージの有無で検討したものが 16 件、タッチケア/ベビーマッサージの内容・条件で検討したものが 4 件、タッチケア/ベビーマッサージの時期と有無の両方で検討したものの 2 件、カンガルーケア、オイルマッサージ、plastic swaddler の比較が 1 件。

6. 主なアウトカム評価項目

臨床的効果に関する文献: 海外文献 16 件、本邦の文献 7 件。

生理的効果に関する文献: 海外文献 5 件、本邦の文献 1 件。

7. 主な結果

臨床的効果に関するもの (重複あり): 体重の増加 8 件、睡眠覚醒リズムの発達促進 7 件、行動発達の促進 3 件、ストレス反応の減少 4 件、栄養学的効果 2 件、低体温の予防 2 件、その他 2 件 (入院期間および医療費、死亡率)。

生理的効果に関するもの: 迷走神経活動の促進、インスリン・成長ホルモンの分泌増加、深夜帯のメラトニン分泌増加、ストレスホルモンの排泄促進、生理的黄疸の軽減、骨形成の促進。

8. 結論

タッチケア/ベビーマッサージの効果が十分に検証されていたのは早産児の報告に限られ、正期産児に関する報告は不十分だった。タッチケア/ベビーマッサージの効果は、対象やプログラムに大きく影響されると考えられた。

9. 論文中の安全性評価

該当せず。

10. Abstractor のコメント

本研究は、母子関係構築の手段の 1 つとして、心理的な効果を期待し広く用いられている新生児や乳児へのタッチケア/ベビーマッサージについて、より臨床的・生理学的な効果に着目して行われた文献研究である。対象文献について、構造化された手法でレビューを作成し、これまでの研究成果および課題を明確に指摘している。

ただ、データベースを用いた文献検索について、検索日および対象期間の記載がみられず、PubMed による海外文献の選定条件に“入手が容易である”ことが含まれている等、やや研究手法に課題がみられる。また、対象文献の量と質の問題も影響していると思われるが、統計学的解析は行われていない。

しかし、本研究が明らかにした成果および課題は意義深いものであり、新生児や乳児を対象とした手技療法の更なる研究発展が強く望まれる。

11. Abstractor and date

福島正也 2015.3.31

JM12210